

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教 科 名	国 語		年 次	2	コース	全コース
科 目 名	論理国語		履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「新編論理国語」（東京書籍）					
副教材（出版社）	な し					
教科の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。					
	(1) 読む能力・書く能力 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色を読み取ったり、要約したりすることができる。 ・論理的な文章や記録的な文章の他、随筆など情緒的な文章を書くことができる。 ・文章の段落構成を的確にとらえ、筆者の主張をつかむことができる。	(2) 話す・聞く能力 ・自分の考えを持ち、目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。		(3) 関心・意欲・態度 ・国語を適切に表現し的確に理解しようとする。 ・伝統的な言語文化の特質などを理解しようとする。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。					
	(1) 知識および技能 ・実社会に必要な国語の知識や語彙力、場面に応じた言葉遣いなどの技能を身に付けるようにする。	(2) 思考力、判断力・表現力等 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。		(3) 学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値への認識を高めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 資料やタブレット等を活用して、分からないことを調べながら授業を進めていきます。
- (2) 「読むこと」「聞くこと」「自分の考えを適切に表現すること」文字を丁寧に「書くこと」常に意識しましょう。
- (3) 評価は定期考査や課題提出物、主体的な授業への取り組みを総合的に判断します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・文法を理解し、テキストの内容を正確に理解することができる。 ・場面や相手によって言葉の使い方が変わることを理解することができる。 ・文章の要旨をまとめ、分掌の要点を把握することができる。	・自分の考えが適切に伝わるように効果的に話すことができる。 ・表現の違いから動作の主体を思考し判断することができる。 ・テキストの内容を理解し分かりやすくまとめることができる。	・学習活動に対して主体的に取り組もうとしている。 ・自分の考えや意見を積極的に発信することができる
評価資料	・定期考査 ・ノート ・課題プリント ・活動状況の観察。	・定期考査 ・ノート ・課題プリントの内容 ・活動状況の観察	・活動状況の観察 ・授業への積極的な参加 ・ノート・課題の提出状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	1 7	ガイドンス 「世界を作り替えるために」 小林康夫	・授業の進め方や評価基準について理解する。 ・各段落で述べられた筆者の考えを押さえて通読する。 ・比喩表現や文章の論理的構造を理解する。 ・筆者が主張する「学ぶことの段階」について考える。	○	○	○
5	7	「ふしぎ」ということ 河合隼雄	・具体例を挙げて説明している部分を指摘する。 ・「あたりまえ」を「ふしぎ」と受け止める意義を考える ・「自然科学」と「物語」の違いについて理解する。 ・慣用句の意味について確認する。	○	○	○
6	2 7	前記中間考査・解説 「対話とは何か」 細川英雄	・「対話」と「おしゃべり」の違いについて注意する。 ・「対話成立のポイント」が何か理解する。 ・筆者が考える「対話」の意義についてまとめる。	○	○	○
7 8	8	「学ぶことと人間の知恵」 広中平祐	・「コンピューター」と「人間」の違いに注意する。 ・忘れても無駄ではないと筆者が考える理由をまとめる ・「知恵」の広さ、深さ、強さについてまとめる。 ・学ぶことの意義における筆者の主張を読み取る。	○	○	○
9	2 7	前期期末考査・解説 少女たちの「ひろしま」 梯久美子	・戦時下に生きた人々に思いを巡らし、時代を考える。 ・筆者の認識の変化が示されている部分を指摘する。 ・石内都の写真集の特徴と、洋服に対する視点を考える	○	○	○
10	8	安心について 廣淵升彦	・被爆した女性と筆者をつなぐ「回路」の意味を捉える ・漫画の内容から子供にとっての安心について考える。 ・世界中の全ての子供が「安心」していないことを理解する。	○	○	○
11	2 7	後期中間考査 複数の「わたし」	・全体を振り返り筆者の考える「安心」について理解する。 ・人が複数の役割を持っていることに気付かせる。			
12		松村圭一郎	・「近代の個人主義的人間観」とは何か読み取る。 ・他者によって引き出される「わたし」とは何か読み取る。 ・最後の文章で筆者が問いかける意図を読み取る。	○	○	○
1	7	最初のペンギン 茂木健一郎	・「神」と「人間」の対立関係を確認する。 ・不確実な中で決断する「最初のペンギン」を確認する ・感情の技術を磨く必要性を理解する。 ・創造は未知へのジャンプという筆者の主張を読み取る	○	○	○
2 3	2 3	後期期末考査・解説 次年度に向けて	1、2年次での振り返りと次年度の課題について考える。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	国語	年次	2	コース	全コース
科目名	古典探究	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「新編古典探究」（東京書籍）				
副教材（出版社）	なし				
教科の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
	(1) 読む能力・書く能力 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色を読み取ったり、要約したりすることができる。 ・論理的な文章や記録的な文章の他、随筆など情緒的な文章を書くことができる。 ・文章の段落構成を的確にとらえ、筆者の主張をつかむことができる。	(2) 話す・聞く能力 ・自分の考えを持ち、目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。	(3) 関心・意欲・態度 ・国語を適切に表現し的確に理解しようとする。 ・伝統的な言語文化の特質などを理解しようとする。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。				
	(1) 知識および技能 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 思考力、判断力・表現力等 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	(3) 学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 資料やタブレット等を活用して、古典文法や漢文訓読のルールおよび、作品に描かれた当時の時代背景や登場人物の心情を理解しましょう。
- (2) 「読むこと」「聞くこと」「自分の考えを適切に表現すること」「伝統的な言語文化を理解すること」がバランスよく伸ばせるような活動を目指します。
- (3) 評価は定期考査や課題提出物、主体的な授業への取り組みを総合的に判断します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・文法を理解し、テキストの内容を正確に理解することができる。 ・場面や相手によって言葉の使い方が変わることを理解することができる。 ・文章の要旨をまとめ、分掌の要点を把握することができる。	・自分の考えが適切に伝わるように効果的に話すことができる。 ・表現の違いから動作の主体を思考し判断することができる。 ・テキストの内容を理解し分かりやすくまとめることができる。	・我が国の伝統的な言語文化に対して主体的に取り組もうとしている。 ・自分の考えや意見を積極的に発信することができる
評価資料	・定期考査 ・ノート ・課題プリント ・活動状況の観察。	・定期考査 ・ノート ・課題プリントの内容 ・活動状況の観察	・活動状況の観察 ・授業への積極的な参加 ・ノート・課題の提出状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	6	ガイドンス 十訓抄「大江山の歌」	・授業の進め方や評価基準について理解する。 ・定家中納言の言動の内容を読み取る。 ・小式部内侍のとった行動を読み取る。 ・和歌文学、および和歌の技巧について理解する。	○	○	○
5	5	戦国策「蛇足」	・本文を正しく音読する。 ・脚注を参考にしながら本文を書き下し現代語訳する。 ・「為蛇足者」が酒を失った理由を考える。	○	○	○
	6	徒然草「丹波に出雲という所あり」	・主語を確認しながら、話のあらすじを読み取る。 ・聖海上人の言葉の変化に沿って心情を読み取る。	○	○	○
6	2	前記中間考査・解答	・この話のおもしろさを説明する。	○	○	
	5	五雑組「畏饅頭」	・本文を正しく音読し、書き下し現代語訳する。	○	○	○
7			・「窮書生」が饅頭を食べるために考えた計略を確認する ・この話のおもしろさとの点にあるか話し合う。			
	8	方丈記「ゆく河の流れ」	・全文を繰り返し音読し、その構成と内容を捉える。	○	○	○
8	2	前期期末考査・解説	・「人」と「栖」の類似点について考える。 ・この作品で描かれている「無常観」について考える。	○	○	
9	5	呂氏春秋「知音」	・本文を正しく音読し、書き下し現代語訳する。 ・伯牙と鍾子期の関係を読み取る。	○	○	○
	6	土佐日記「馬のはなむけ」	・故事成語の意味や使い方を確認する。 ・日記文学や作者についての理解を深める。	○	○	○
10	6	史記「四面楚歌」	・臍化表現や機知に富んだ表現を指摘し特色を考える。 ・当時の月日や時刻の呼び方を理解する。 ・本文を正しく音読し、書き下し現代語訳する。 ・漢詩に詠まれた項王の心情を理解する。	○	○	○
11	2 2	後期中間考査・解説 小倉百人一首の世界	・文学史上の位置づけや、紀伝体について理解する。 ・鑑賞文が掲載された和歌を鑑賞し、和歌に詠まれた心情や情景を味わう。			
12	4	百人一首大会準備	・校内百人一首大会に向けて、ルールの確認や札をとる技術を身に付ける。	○		○
1	5	淮南子「塞翁馬」	・本文を正しく音読し、書き下し現代語訳する。 ・「塞翁」と周囲の人々の言動の違いを確認する。 ・本文中の「禍」と「福」について考えさせる。 ・「塞翁」の考え方に確認する。	○	○	○
2	6	枕草子 「雪のいと高う降りたるを」	・場面を読み取り、発言の主体と動作を把握する。 ・作者の発言が、相手にどのように受け取られたか読み取る。	○	○	○
3	2	「中納言参り給ひて」 後期期末考査・解説	・周囲の作者に対する評価を読み取る。	○	○	

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	年次	2	コース	共通
科目名	地理総合	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「 高等学校 新地理総合 」(帝国書院)				
副教材（出版社）	「 高等学校 新地理総合ノート 」(帝国書院)				
教科の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。				
	(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したしたことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。				
	(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したしたことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業の進め方

- ・予習や振り返りなどにより、地理的事象を捉える基本的な概念や知識を身に付ける。
- ・一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、物事を多面的・多角的に考察し、他者の意見を交えて合理的かつ公正に判断する力を身に付ける。
- ・資料から適切な情報を選択し、課題を追究したり解決したりする活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、課題追究・課題解決の方法を身に付ける。

(2) 学習に当たって

- ・メディアによる報道をはじめとする様々な情報発信の取捨選択を適切に行い、現代の特質や課題に関心を持つ。
- ・関心事項の調査や考察をおこない、論点を見いだすところに地理学習の本質的なねらいがあることを理解する。
- ・疑問や気づき・発見を大切にするとともに、他教科科目の学びも活かしながら主体的に学習活動をおこなう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	現代の地理的諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、学習活動をするために必要となる情報を適切かつ効果的に理解し、その力を発揮することができている。	地理的諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や基本的原理や技能を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断して人々の生活や共生社会を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	・よりよい共生社会の実現を視野に、時代を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・知識及び技能を獲得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価資料	・定期考査の点数 ・小テスト等の点数 ・ワークシート等の記述内容 ・学習の振り返り	・定期考査の点数 ・ワークシート等の記述内容 ・観察(学習状況、討論・発表など) ・学習の振り返り	・対話的で意欲的な学習活動 ・定期考査の点数 ・ワークシート等の記述内容 ・観察(学習状況、討論・発表など) ・学習の振り返り
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (83%以上) B (82%～51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (83%以上) B (82%～51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (83%以上) B (82%～51%) C(50%以下)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (90%以上)、4 (80%～90%未満)、3 (50%～80%未満)、2 (40%～50%未満)、1 (40%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	6	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 1 地球上の位置と私たちの生活 2 時差と私たちの生活 2節 地図の役割と種類 1 地球儀と地図 2 身の回りの地図 3 統計地図の種類と利用 4 地理情報のシステムの活用	地球上の位置を緯度経度で表現し、私たちの生活への影響を知る。 ・緯度の違いによる人々の生活への影響を考える。 ・時差による人々の生活への影響を考える。 地図や地理情報システムの役割や種類を知る。 ・地図図法に特徴を理解し、適切に地図を利用する。 ・主題図と一般図を理解し、適切に地図を利用・作成する。 ・さまざまな統計地図を理解し、適切に地図を利用・作成する。 ・GISのシステムを理解し、役立つ生活場面を考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
5	8	第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 1 現代世界の国家 2 日本の位置や領域 2節 グローバル化する世界 1 国家間の結びつき 2 貿易によって結びつく世界 3 さまざまな交通網の発達 4 世界を結ぶ通信網の発達 5 観光のグローバル化	世界のさまざまな国家を知り、国家の領域や国境について確認する。 ・国家の領域や国境にある決まりを考える。 ・日本の位置や領域、排他的経済水域について理解する。 世界の国々を結びつける要素を理解し、その変化について考察する。 ・世界の国家の結び付きの変化の原因と理由について理解する。 ・貿易の特徴を踏まえ、その課題について考察する。 ・交通網の発達が人々の生活を支えていることを理解する。 ・通信網の発達が人々の生活を支えていることを理解する。 ・グローバル化によって人々の生活に与える影響を考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
6	8	第2部 国際理解と国際協力 序説 生活文化の多様性 1 生活文化を考察する方法 1節 世界の地形と人々の生活 1 大地形と人々の生活 2 変動帯と人々の生活 3 安定地域と人々の生活 4 河川がつくる地形と人々の生活 5 海岸の地形と人々の生活 6 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活	世界の生活様式の多様性について理解を深める。 ・世界の多様な生活文化を考察する方法について知る。 地球上の多様な地形の中で暮らす人々について理解を深める。 ・大地形と人々の生活の関わりについて考察する。 ・変動帯の地形が人々の生活に与える影響について考察する。 ・安定地形の地形が人々の生活に与える影響について考察する。 ・河川をつくる地形が人々の生活に与える影響について考察する。 ・海岸をつくる地形が人々の生活に与える影響について考察する。 ・特殊な地形が人々の生活に与える影響について考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
7	4	2節 世界の気候と人々の生活 1 気温・降水と人々の生活 2 大気大循環と人々の生活 3 世界の植生と気候区分	気候要素と気候因子を踏まえ、人々の生活に与える影響について知る。 ・気温や降水が人々に与える影響について考察する。 ・風が人々に与える影響について考察する。 ・雨温図やハイサーグラフを読み取り、植生と気候とについて考察する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
8	4	4 熱帯の生活 5 乾燥帯の生活 6 温帯の生活 7 亜寒帯・寒帯の生活	・熱帯の気候と植生が人々の生活に影響していることを考察する。 ・乾燥帯の気候と植生が人々の生活に影響していることを考察する。 ・温帯の気候と植生が人々の生活に影響していることを考察する。 ・亜寒帯・寒帯の気候と植生が人々の生活に影響していることを考察する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
9	8	3節 世界の言語・宗教と人々の生活 1 世界の言語と人々の生活 2 世界の宗教と人々の生活文化 4節 歴史的背景と人々の生活 1 歴史背景が人々の生活に与える影響 5節 世界の産業と人々の生活 1 人々の生活を支える農業の発展 2 人々の生活を支える工業の発展 3 グローバル化する現代の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 1 相互に関連する地球的課題とその解決に向けて	多様な民族の有様とさまざまな宗教や言語が生活に与える影響を知る。 ・言語が人々の生活に与える影響について考察する。 ・宗教が人々の生活に与える影響について考察する。 歴史的な背景が人々の生活に与える影響を知る。 ・歴史的な背景が人々の生活に与える影響について考察する。 自然環境を生かした産業の発展とグローバル化による変化を知る。 ・農業の発展が人々の生活に与えた影響について考察する。 ・工業の発展が人々の生活に与えた影響について考察する。 ・産業のグローバル化が人々の生活に与えた影響について考察する。 地球的課題の背景にあるものを考えさせ、課題解決能力を養う。 ・地球的課題の確認とその解決に向けた取り組みについて理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

10	8	2 節 地球環境問題 1 多様な地球環境問題 2 熱帯林の破壊への対策 3 地球温暖化への対策 3 節 資源・エネルギー問題	人間の経済活動による地球環境問題に対する取り組みについて知る。 ・地球環境問題の分類化し、その発生原因について理解する。 ・熱帯林破壊の現状とその理由を理解する。 ・地球温暖化の原因と環境への影響を理解する。	○	○	○
		現在の資源エネルギーの使用による課題と持続可能なエネルギーの利用について考察する。 1 世界のエネルギー・鉱産資源 2 エネルギー利用の現状と課題 3 地域で異なるエネルギー問題への取り組み 4 節 人口問題 1 世界の人口 2 発展途上国と先進国の人口問題	・エネルギー資源と鉱産資源の利用について知る。 ・現在のエネルギー使用における課題を認識し、解決法を検討する。 ・諸国のエネルギー問題への取り組みに見られる特徴を知る。 諸国諸地域で異なる人口動態について理解し、その対策を考える。 ・人口分布や人口増減の特徴を知る。 ・途上国と先進国の人口問題の違いを知る。	○	○	○
11	8	3 地域で異なる人口問題への取り組み 5 節 食料問題 1 飢餓と飽食 2 地域で異なる食料問題への取り組み 6 節 都市・居住問題 1 世界の都市の発達 2 発展途上国と先進国の都市・居住問題 3 地域で異なる都市・居住問題の取り組み	・インドやフランスを例に人口問題への取り組みの違いを確認する。 地域による食料自給の偏りの原因をもとに、問題解決に向けた取り組みを検討する。 ・飢餓や飽食の実態を理解し、発生の原因を知る。 ・食料問題への取り組みが地域で異なることを知る。 国や地域で異なる都市・居住問題への対策を知る。 ・都市の発達や大都市の分布の特徴や傾向を理解する。 ・それぞれの地域の都市・居住問題の違いについて理解する。 ・メキシコシティとポーランドの取り組みについて知る。	○	○	○
		第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1 節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 2 節 地震・津波と防災 1 地震・津波による災害 2 地震・津波の災害地の取り組み 3 節 火山災害と防災 1 火山の恵みと災害 2 火山と共生する地域の取り組み	自然災害は地域の地形や気候と密接な関係にあることを知る。 ・日本の地形の特徴を理解し、形成の理由を考察する。 ・日本の気候の特徴を理解し、その地域差をについて考察する。 地震や津波による被害を考え、その発生に備えた取り組みを考える。 ・地震や津波による災害の地域差を考える。 ・防災や減災の取り組みについて考える。 火山の恩恵と被害を理解し、災害に備えた取り組みを考える。 ・火山が人々にもたらす恵みと災害を考える。 ・火山と共生するための取り組みを考える。	○	○	○
1	4	4 節 気象災害と防災 1 さまざまな気象災害 2 気象災害への取り組み 5 節 自然災害への備え 1 減災の取り組み 2 被災地への支援	気象災害の種類や被害の特徴を知り、その備えとしての取り組みを知る。 ・気象災害が発生する場所の特徴について考察する。 ・気象災害に対する取り組みと課題について考察する。 災害への備えで被害の軽減を図るためにすべきことを確認し、災害発生時の危機管理体制について理解する。 ・自然災害の被害を軽減する取り組みについて検討する。 ・被災地への支援として必要なことできることを検討する。	○	○	○
		第2章 生活圏の調査と地域の展望 1 節 生活圏の調査と地域の展望 1 地理的な課題と地域調査 2 現地調査の準備 3 現地調査の実施	地理的な課題と特徴を捉え、生活圏が抱える課題について探求する。 ・生活圏の課題を探求するにあたり必要なことを考える。 ・調査にあたり必要な準備をおこなう。 ・効果的な現地調査をおこなうために必要なことを考える。	○	○	○
3	4	4 調査の分析と発表	課題に対して、これまでの学習で身に付けた知識を活用し、自らの関心に基づいてより学習を深め、関係する統計や図表等の情報と調査結果を整理し、それに基づき自ら考え判断したことを表現する。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	年次	2	コース	共通
科目名	歴史総合	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「 明解 歴史総合 」(帝国書院)				
副教材（出版社）	「 明解 歴史総合ノート 」(帝国書院)				
教科の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。				
	(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したしたことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
科目の目標	広い視野と見識を養い、「近代化」、「大衆化」、「グローバル化」の3つの軸を中心に歴史を捉え、生徒が現代的な諸課題を考える力を身に付けることを大目標とする。そのために、歴史的知識をただ覚えるのではなく、その理解に必要な技能をより多く習得させる。 また、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者としての生き方を見いだせるよう、多面的・多角的な考察力、適切で確かな判断力を磨き、主体的学習に取り組む人間の形成を目指す。				
	(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに注目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業の進め方
・予習や振り返りなどにより、近現代の歴史を捉える基本的な概念や知識を身に付ける。 ・一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、物事を多面的・多角的に考察し、他者の意見を交えて合理的かつ公正に判断する力を身に付ける。 ・資料から適切な情報を選択し、課題を追究したり解決したりする活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、課題追究・課題解決の方法を身に付ける。
(2) 学習に当たって
・メディアによる報道をはじめとする様々な情報発信の取捨選択を適切に行い、現代の特質や課題に関心を持つ。 ・関心事項の調査や考察をおこない、論点を見いだすところに歴史学習の本質的なねらいがあることを理解する。 ・疑問や気づき・発見を大切にするとともに、他教科科目の学びも活かしながら主体的に学習活動をおこなう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	・よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価資料	・定期考査の点数 ・小テスト等の点数 ・ワークシート等の記述内容 ・学習の振り返り	・定期考査の点数 ・ワークシート等の記述内容 ・観察(学習状況、討論・発表など) ・学習の振り返り	・対話的で意欲的な学習活動 ・ワークシート等の記述内容 ・観察(学習状況、討論・発表など) ・学習の振り返り
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (83%以上) B (82%～51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (83%以上) B (82%～51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (83%以上) B (82%～51%) C(50%以下)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を <u>1 : 1 : 1</u> で集約し、5 (90%以上)、4 (80%～90%未満)、3 (50%～80%未満)、2 (40%～50%未満)、1 (40%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	6	1 部 歴史の扉 1 章 歴史と私たち 1 食文化から見る日本と世界の歴史 2 歴史の特質と資料/歴史的資料の解釈 2 部 近代化と私たち 近代化への問い 18 世紀までの世界 1 章 江戸時代の日本と結び付く世界 1 アジアの中の江戸幕府	中学までの振り返りで歴史的事象をフィードバックさせる。 ・ 歴史を学ぶ意義を知る。簡単な確認をする。 ・ オリエンテーションを行う。簡単な確認をする。 資料の読み取り方の技能について確認をする。 ・ 適切な情報選択をおこない、その情報を基に考察する。 歴史的な問い立てを行い、諸資料を通じて解決する力をつける。 ・ 近世までの国際関係のあるものを通して理解する。 18 世紀の日本と世界のつながりを通して考察力を身に付ける。 ・ 江戸幕府の鎖国政策のねらいを考察する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
5	8	2 成熟する江戸社会 3 清の繁栄と結び付くアジア 4 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ 2 章 欧米諸国による近代化 1 イギリスの革命とアメリカの独立 2 フランス革命 3 フランス革命の影響 4 産業革命で変わる社会 5 イギリスの繁栄と国際分業体制	・ 江戸社会の特質について考察する。 ・ 清のアジア・ヨーロッパとの結び付きの背景について考察する。 ・ ヨーロッパのアジア、アメリカ進出について考察する。 17～18 世紀のヨーロッパ社会の変化の本質について理解を深める。 ・ ヨーロッパ社会の変質について理解する。 ・ ヨーロッパの近代化が幕開けすることを理解する。 ・ ヨーロッパ全土への近代化の広がりについて理解する。 ・ 近代化が産業革命の推進によって激変することを理解する。 ・ イギリスを中心とする近代化について理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
6	8	3 章 近代化の進展と国民国家の形成 1 1848 年 2 国民国家の成立とロシアの近代化 3 アメリカの拡大と第 2 次産業革命 4 帝国主義と世界の一体化 4 章 アジア諸国の同様に日本の開国 1 西洋の衝撃と西アジアの変化 2 南・東アジアの植民地化 3 節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 4 黒船の来航と日本の対応	産業革命期の世界経済体制を理解し、アジアや欧米諸国の経済の変化について資料を用いて表現させる。 ・ 近代ヨーロッパの転換点について説明する。 ・ 国民国家成立の背景とロシア近代化の遅れを説明する。 ・ アメリカの統一と進展と第 2 次産業革命の関係について説明する。 ・ 第 2 次産業革命後の世界の変化について説明する。 国家間格差の拡大を埋めるために必要なことについて考えさせる。 ・ イスラム諸国が欧州勢力の進出により受けた影響を考察する。 ・ アジアにイギリスが進出した理由を考察する。 ・ 清の欧州勢力進出に対する反応について考察する。 ・ 日本の欧州勢力進出に対する反応について考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
7	4	5 新体制の模索と江戸幕府の滅亡 5 章 近代化が進む日本と東アジア 1 新政府の誕生 2 近代国家を目指す日本 3 日本と清の近代化と日清戦争 4 列強の中国進出と日露戦争 5 日露戦争が与えた影響	・ 近代化を受け入れた日本国内の対応について考察する。 日本や東アジアの近代化の変化を資料から読み取る力を身に付ける。 ・ 資料から明治維新を読み解く。 ・ 資料から日本の近代化政策を読み解く。 ・ 資料から日本、清、朝鮮の国際関係を読み解く。 ・ 資料から日清戦争後の国際関係を読み解く。 ・ 日露戦争の影響が世界に与えた影響を資料から読み解く。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
8	4	3 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 章 国際秩序の変化や大衆化の問い 1 ドイツの挑戦とバルカンの緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦 3 ロシア革命と大戦の終結 2 章 国際協調と大衆社会の広がり 1 ヴェルサイユ体制の成立	国際秩序の変化や大衆化について考察させる。 ・ ドイツとロシアの対外政策変更について考察する。 ・ 諸国やその国民がどのようにして第一次大戦に関わったのかを考察する。 ・ ロシアで社会主義政権が成立した背景を考察する。 世界に拡大した大衆化について考察させる。 ・ 第一次大戦後の国際秩序の内容について考察する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
		2 東アジアの民族自決の行方 3 中東・インドの民族自決の影響 4 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加	・ 第一次大戦後の東アジアの変化を考察する。 ・ 第一次大戦が中東諸国やインドに与えた影響を考察する。 ・ 第一次大戦後に世界の人々が望んだものを考察する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

9	8	5 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6 日本における大衆社会の形成 3 章 日本の行方と第二次世界大戦 1 世界恐慌が与えた影響 2 ファシズムの台頭と拡大 3 政党政治の断絶と満州事変 4 日中戦争のはじまり 5 第二次世界大戦の展開 6 戦局の悪化と被害の拡大	・欧米で形成された大衆社会の内容について考察する。 ・日本の大衆化がどのように進んだかを考察する。 大衆化が戦争を導いた理由を資料から読み取らせる。 ・世界恐慌が国際協調に与えた影響を読み取る。 ・ファシズムが人々を魅了した理由を資料から読み取る。 ・日本のファシズム化を資料から読み取る。 ・日本が日中戦争をはじめた理由を資料に表現する。 ・第二次大戦が世界規模に拡大した理由や背景を説明する。 ・第二次大戦の進展について、多観点から考察する。	○	○	○
10	8	7 第二次世界大戦の終結とその惨禍 4 章 再出発する世界と日本 1 戦後の新たな国際秩序 2 冷戦のはじまり 3 日本撤退後のアジア 4 日本の改革と独立の回復 4 部 グローバル化と私たち 1 章 冷戦で揺れる世界と日本 1 アメリカ・ソ連の緊張と緩和 2 冷戦下における日本の復興 3 第三勢力の形成と脱植民化	・終戦を迎えた日本が抱えた問題を資料から考察する。 第二次大戦後の国際秩序の変化がどのように変化したかを理解する。 ・大戦後の国際体制づくりについて特徴を理解する。 ・冷戦がはじまった理由、背景を理解する。 ・日本が撤退した後、アジア諸国が主権を回復する流れを理解する。 ・占領下の日本が独立を回復した流れを理解する。 グローバル化と世界のつながりの変化と特徴を理解させる。 ・冷戦が世界に与えた影響について考察する。 ・日本の高度経済成長と冷戦下の外交について考察する。 ・冷戦が激化する中、アジア・アフリカの脱植民地化の進展を考察する。	○	○	○
11	8	4 中東戦争とパレスチナ問題 2 章 多極化する世界 1 揺らぐアメリカと先進各国の変化 2 経済大国日本の模索 3 経済発展に取り組むアジア・南米諸国 4 イスラーム復興と冷戦への影響 3 章 グローバル化の中の世界と日本 1 冷戦の終結と変わる世界構造 2 冷戦の終結が世界に与えた影響 3 超大国アメリカと中東情勢	・中東問題が世界に与える影響について考察する。 経済成長を目標に諸国が冷戦の中でどのように進むのか考察させる。 ・60～70年代のアメリカが抱えた問題が世界に与える影響を考察する。 ・60～70年代の日本が抱えた問題について考察する。 ・東アジア・東南アジア諸国が経済成長した理由や背景を考察する。 ・イラン＝イスラーム革命が世界に与えた影響を考察する。 グローバル化が世界を変化させたことを資料から読み取らせる。 ・雪解けによる世界構造の変化を読み取る。 ・冷戦終結がアジアに与えた影響を読み取る。 ・アメリカが中東問題に関与する理由を読み取る。	○	○	○
12	4	4 国際環境の変化と日本 5 グローバル化による国際環境の変容 現代的な諸課題の展望について考える	・国際環境の変化が日本の政治や経済に与えた影響を読み取る。 ・グローバル化の進展による国際社会の変化を読み取る。 地球規模の課題について自ら設定し、 ①その問題の形成過程を調べる。 ②教科書以外の関連する情報を調べる。	○	○	○
1	4		③グループで情報の共有化を図り、自分の考えを深める。 ④自分の考えをレポート化する。	○	○	○
2	4		⑤スライドを使って発表する資料をつくる。	○	○	○
3	4		課題に対して、これまでの学習で身に付けた知識を活用し、自らの関心に基づいてより学習を深め、関係する統計や図表等の情報を整理し、それに基づき自ら考え判断したことを整理して表現できる。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	数 学	年 次	2	コース	共通
科目名	数 学 II	履修区分	必修	単位数	4
教科書（出版社）	「新編 数学Ⅱ」（数研出版）				
副教材（出版社）	「3TRIAL Ⅱ」（数研出版）もしくは「3TRIAL Ⅱ+B」（数研出版）				
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係を着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 課題学習型授業

主に与えられた問題を解くことで、思考力や自主学習能力を向上させます。考查は選択制で、1 学年時の考查形式を踏襲し 8 割が共通問題、2 割は標準問題及び基礎問題とします。標準問題が評価に大きく関わります。

(2) 家庭学習

「わかる」と「できる」は同じではありません。「わかる」ために授業をフル活用し、「できる」ようになるために家庭学習（授業時間外の学習）を習慣にしてください。問題集、スタディサプリ等に繰り返し取り組みましょう。

2 評 価

評価の観点	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む 態 度
評価の観点の趣旨	・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考查の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考查の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述状況 ・宿題・課題等の提出状況 ・振り返りシート
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	10	1 章 方程式・式と証明 1 節 整式・分数式の計算 1 整式の乗法と因数分解 (1)	3 次式の乗法公式と因数分解の公式について理解し計算できる。 パスカルの三角形から二項定理の数字の並びに気づき、その応用を通して数学の良さに触れる。	○	○	○
		2 二項定理 (2)				

		3 整式の除法 (2)	整式の割り算をすることができる。また、整式 A を整式 B で割った商と余り R の関係式 $A=BQ+R$ を見いだすとともに、この関係式から余りを求めることができる。	○	○	○
		4 分数式とその計算 (2)	分数の中に式が入っている整式の約分や通分と四則計算ができる。	○		○
		2 節 2 次方程式 1 複素数とその演算 (3)	数の範囲を複素数まで拡張することに興味をもち、その必要性和意味を理解する。	○		○
5	12	2 解の公式 (3)	数の範囲を複素数まで拡張すると、どのような 2 次方程式でも解の公式によって解くことができることや、2 つの解を持つことを理解する。	○		○
		3 解と係数の関係 (3)	2 次方程式の 2 つの解の和と積が、方程式を解かなくても解と係数の関係によって求めることができることに興味を持つ。	○	○	○
		3 節 高次方程式 1 因数定理 (4)	剰余の定理、因数定理を理解する。	○		○
		【前期中間考査】 (2)				
6	16	2 簡単な高次方程式 (3)	因数分解や因数定理を利用して高次方程式を解くことができる。 恒等式の考えを理解し、等式の証明ができるようになる。	○		○
		4 節 式と証明 1 恒等式 (4)				
		2 不等式の証明 (4)	不等式の性質を理解し、不等式の証明をすることができる。また、相加平均と相乗平均の間に成り立つ関係を理解し、利用することができる。	○	○	○
		2 章 図形と方程式 1 節 点と直線 1 直線上の点の座標 (2)	数直線上の 2 点間の距離や、内分点・外分点の意味を理解し、求めることができる。	○		○
		2 平面上の点の座標 (3)	平面座標上の 2 点間の距離や、内分点・外分点を座標の計算で求めることができる。	○		○
7	12	3 直線の方程式 (3)	さまざまな直線の方程式を、図形との関係を明らかにしながら求めることができる。	○		○
		4 2 直線の関係 (2)	2 直線が平行になる場合と垂直になる場合について理解し、それぞれの条件を求めることができる。また、座標を利用して、図形の性質を調べることに興味を持つ。	○	○	○
		2 節 円 1 円の方程式 (3)	円の方程式を求めることができる。	○		○
		2 円と直線 (3)	直線の方程式と円の方程式を連立させて 2 次方程式を解くことにより、その共有点の座標を求めることができる。また、円と直線の位置関係に判別式がどのように関連するかを考察することができる。	○	○	○
8	8	3 2 つの円の位置関係 (1)	2 つの円の位置関係を理解する。	○		○
		3 節 軌跡と領域 1 軌跡とその方程式 (3)	直線や円が条件を満たす点の集合として表せることを理解し、軌跡の方程式を求めることができる。	○	○	○

		2 不等式の表す領域 (3) 【前期期末考査】 (2)	直線や円によって区切られる領域が1つの不等式で表されることを理解する。また、不等式が表す領域を図示することができる。	○	○	○
9	12	2 連立不等式の表す領域 (3) 3章 三角関数 1節 三角関数 1 一般角 (2) 2 弧度法 (2) 3 三角関数 (3) 4 三角関数の性質 (2)	いくつかの不等式で表される領域がそれぞれの不等式が表す領域の共通部分であることを理解し、それを図示することができる。 360°以上の角やマイナスの角の考え方について理解する。 弧度法による角の表示について理解し、扇形の面積や弧の長さを求めることができる。 三角関数を一般角、弧度法により定義し、三角関数と単位円との関係や値域を理解する。また、三角関数の相互関係などについて理解する。 三角関数の性質を理解する。	○	○	○
10	16	5 三角関数のグラフ (4) 6 三角関数を含む方程式・不等式 (2) 2節 加法定理 1 加法定理 (4) 2 加法定理の応用 (3) 3 三角関数の合成 (3)	三角関数のグラフの特徴に興味を持ち、その特徴を理解してグラフから様々な事を考察することができる。 三角関数を含む方程式や不等式の解法を理解する。 三角関数の加法定理の考え方を学び、公式を操作することについて理解する。また、15°や75°などの計算ができるようになる。 加法定理から2倍角の公式を導き、利用できる。 三角関数の合成について理解し、関数の最大値、最小値を求めることができる。	○	○	○
11	12	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 1 整数の指数 (2) 2 累乗根 (2) 3 有理数の指数 (2) 4 指数関数とそのグラフ (4) 【後期中間考査】 (2)	指数の拡張に興味を持ち、拡張の考え方を帰納的に考え理解する。 累乗根の意味を理解し、計算することができる。 指数を整数から有理数に拡張しても累乗が定義できることを、帰納的に考え理解する。 指数関数のグラフの特徴と性質を理解し、指数関数のグラフを利用して実数の大小比較や方程式、不等式を解くことができる。	○	○	○
12	12	2節 対数関数 1 対数とその性質 (3) 2 対数関数とそのグラフ (4) 3 常用対数 (3)	対数の定義や性質を理解し、簡単な式の値を求めることができる。 指数関数の性質と関連づけながら、対数関数の性質について理解を深め、そのグラフの特徴と性質を理解する。 常用対数について理解を深め、実生活で利用されている計算方法を学び、その良さに触れる。	○	○	○

		5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 1 平均変化率 (2)	平均変化率が、2点を通る直線の傾きに等しいことを理解する。	○		○
1	8	2 微分係数 (2) 3 導関数 (3) 4 導関数の計算 (3)	関数の平均変化率の極限值として、微分係数を求めることができる。また、グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味を理解する。 微分係数を関数的にとらえることで、導関数の定義を認識する。 導関数の定数倍・和・差の公式を用いて、簡単な導関数を計算することができる。	○ ○ ○		○ ○ ○
2	12	2節 導関数の応用 1 接線の方程式 (3) 2 関数の増減 (2) 3 関数の極大極小 (2) 4 方程式・不等式への応用 (2) 【後期期末考査】 (2)	微分法を用いて、接線の方程式を求める。 関数の増加と減少を導関数と結びつけて考え、調べる事ができる。 導関数を用いて関数の極大・極小を調べる事ができる。また、その結果からグラフを書くことができる。 微分法を用いて関数のグラフをかき、その結果を方程式の解の個数を調べる事や不等式の証明に応用できる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
3	10	3節 積分 1 不定積分 (2) 2 定積分 (4) 3 定積分と面積 (4)	微分法の逆演算として不定積分を理解し、計算できる。定積分の定義を理解し、その計算ができる。 曲線や直線で囲まれた図形の面積を定積分により求める方法を理解する。また、その定積分を計算して面積を求めることができる。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	理科	年次	2	コース	共通
科目名	地学基礎	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「地学基礎」（実教出版）				
副教材（出版社）	「ビジュアルプラス 地学基礎ノート」（実教出版）				
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				
	(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けられるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				
科目の目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	(2) 地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	(3) 地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。 自然環境の保全に寄与する態度が養われている		

1 学習の進め方と留意点

(1) 実験・観察

各単元において適宜、実験・観察を行います。操作に対する説明を理解し、安全に実習に取り組みましょう。また、目的意識を持って実験・観察に取り組み、科学的に探求することの基礎を学びましょう。

(2) 身につけるべき知識とその活用

物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する力を身につける。学習した知識を基に、化学と日常生活や社会との関わりを考えることができるように努める。

(3) 家庭学習

授業の予習・復習を行い、学習内容を定着できるように努めましょう。ワークブックや教科書の問題、授業プリントを用いた学習に繰り返し取り組みましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	・地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の提出状況 ・確認テスト等の点数 ・振り返りシート等
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	1 章 地球の構成と運動	・地球の形の特徴と大きさを、観察や測定の結果などから見いださせて理解させる。 ・地球の内部には層構造があり、その状態が異なることを理解させる。 ・地球内部の層構造について、地殻、マントル、外核、内核の区分と状態を扱う。また、それぞれの代表的な構成物質についても扱う。	○		
		1 節 地球の構造		○		
		1.地球の形と大きさ		○	○	○
		2.地表のようす 3.地球内部の構造				

5	6	2節 プレートの運動 1.プレートテクトニクス 2.大地形の形成と地質構造	・マントル内にプルームが存在していることを扱う。 ・中央海嶺や海溝、大山脈などの大地形の形成や、断層・褶曲などの地質構造がプレートの運動と関連していることを見いださせる。	○ ○	○	○
6	6	3節 地震と火山 1.地震活動 2.火山活動	・地震の発生プロセスを理解させる。 ・火成岩については、組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいて分類されること、及び多様な火成岩がマグマの性質と関係していることを学ばせる。	○ ○	○	
7	6	2章 大気と海洋 1節 大気の構造と運動 1.高度による気圧・気温の変化 2.大気の層構造 3.大気中の水とその状態 4.大気の状態	・気圧や気温の鉛直方向の変化に関する資料に基づいて、大気の構造の特徴を見いだせて理解させる。 ・大気の構造については、気圧や気温が高度とともに変化することや、対流圏、成層圏、中間圏、熱圏が気温の変化によって区分されていることを理解させる。 ・対流圏では雲の発生や降水、成層圏ではオゾン層により紫外線が吸収されること、熱圏ではオーロラや流星が見られることなどを学ばせる。	○ ○	○	○
8	4	2節 大気の大循環 1.地球のエネルギー収支 2.大気の大循環 3.大気大循環 4.温帯低気圧と熱帯低気圧	・人工衛星による赤外面像や放射冷却に関する資料に基づいて、大気や地表から放射が行われていることを理解させる。 ・水蒸気、二酸化炭素やメタンなどが温室効果をもたらしていることを学ばせる。	○	○	○
9	6	3節 海洋の構造と海水の運動 1.海洋の層構造 2.海水の運動と循環 4節 日本の四季の気象と気候 1.気象と気候 2.日本の四季	・大気と海水の運動に関する資料に基づいて、大気と海洋の大循環について理解させるとともに、それらの地球規模の流れと緯度による太陽放射の受熱量の変化などから、地球規模で熱が輸送されていることを見いださせて理解させる。 ・人工衛星による赤外面像や放射冷却に関する資料に基づいて、大気や地表から放射が行われていることを理解させる。 ・年平均の風や海流の分布などの資料に基づいて、偏西風、貿易風、ハドレー循環、暖流、寒流などを理解させる。	○ ○	○	○
10	8	3章 宇宙、太陽系と地球の誕生 1節 宇宙の誕生 1.宇宙の姿 2.天体の距離と光の速さ 3.ビッグバンから天体の誕生まで	・宇宙の誕生、及び太陽系の誕生について理解させるとともに、地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程を理解させる。 ・宇宙の誕生については、ビッグバンを扱い、宇宙の年齢と宇宙の誕生の過程で水素やヘリウムの原子がつけられたことを理解させる。	○ ○	○	○
11	8	2節 太陽の誕生 1.現在の太陽 2.太陽の誕生 3節 惑星の誕生と地球の成長 1.太陽系の姿 2.太陽系の誕生と惑星の分類 3.地球の誕生と成長	・太陽系の誕生については、原始太陽系円盤から太陽系が誕生したことを理解させる。その際、惑星が形成された過程を中心に扱い、惑星の形成過程で物質の分化により内部に層構造ができたことを学ばせる。 ・太陽からの距離、質量、大きさなどによって、水が液体として存在できる環境がつけられたことや、原始大気が形成されたことを取り上げ、地球が生命を生み出す条件を備えているという特徴をもつことを理解させる。	○ ○	○	○
12	6	4章 古生物の変遷と地球環境の変化 1節 地層のつき方 1.地層のつき方 2.堆積岩 3.地層を調べる 2節 化石と地質時代 1.化石	・地層や化石に関する観察などを行い、古生物の変遷などに基づいて古生代、中生代、新生代の地質時代が更に区分されることを理解させる。 ・地球環境の変化に関する資料に基づいて、大気の変化と生命活動が相互に関わりをもちながら地球環境が変化してきたことを見いださせて理解させる。	○ ○	○	○

1	6	2.地層の対比と地質時代の区分 3 節 古生物の変遷と地球環境 1.初期生命と大気の変化 2.多様な生物の出現と脊椎動物の発展	・古生代の三葉虫、フズリナ、イクチオステガ、リンボク、中生代の恐竜、アンモナイト、ソテツ、トリゴニア、新生代のイネ科などの被子植物、貨幣石、ビカリア、ナウマンゾウなど代表的な化石について学ばせる。また、ヒトの進化では、直立二足歩行などの人類の特徴を扱う。 ・光合成生物の出現による酸素の増加やオゾン層の形成、オゾン層の形成による地表での紫外線の減少と生物の陸上進出について理解させる。	○		○
2	6	3.哺乳類の繁栄と人類の発展 5 章 地球の環境 2 節 地球環境の科学 1.人間がもたらす環境問題と自然変動	・日本における自然環境の特徴を理解させ、それらがもたらす恩恵や災害など、人間生活が自然環境と深く関わっていることを学ばせる。 ・地域の自然災害の実例や防災に関する資料、ハザードマップなどに基づいて、地域の自然災害の特徴を理解させる。	○		○
3	4	2.気候変動と地球環境問題 3.地球環境と物質循環 4.地球環境に与える人間生活の影響	・地球環境の変化を見だし、その仕組みを理解させるとともに、それらの現象と人間生活との関わりについて認識させる。 ・地球温暖化、オゾン層破壊、エルニーニョ現象などについて仕組みを理解させるとともに、人間生活に関連していることを理解させる。	○	○	

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育		年次	2	コース	共通
科目名	体育	履修区分	必修	単位数	2	
教科書（出版社）	「現代高等保健体育 保体701」（大修館）					
副教材（出版社）	「現代高等保健体育ノート」（大修館）					
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。					
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
科目の目標	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			

1 学習の進め方と留意点

- (1) 男女別及び共習の形式で実施する。その際、体力や運動技能の差を鑑みて、多角的な評価をする。
- (2) 互いの違いを受け入れて、協働的・積極的に取り組むこと。
- (3) ルールやマナーを大切にすること。
- (4) 健康・安全に留意して活動すること。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	- 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項について理解している。 - 各種運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。 - 各技能の名称や実践の仕方を理解している。 - ルールを理解している。	- 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決をしようとしている。 - 自己や仲間の課題に応じた取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、考えたことを他者に伝えている。	- 授業にふさわしい身だしなみをしている。 - 健康・安全に留意して活動している。 - 運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。 - 公正に取り組む、互いに協力している（準備・後片付け含む）。 - 互いの良さや一人一人の違いを大切にしようとしている。
評価資料	- 活動状況の観察 - 単元テスト等の記述内容 - 技能テスト等の点数 - 種目の特性の理解 - ルールやマナーの理解	- 活動状況の観察 - 単元テスト等の記述内容 - 技能テスト等の点数 - 合理的・計画的に取り組む姿勢 - 課題を把握し、工夫して取り組む姿勢 - 自己や仲間の考えたことを他者に伝える姿勢	- 活動状況の観察 - 単元テスト等の記述状況 - ふさわしい服装 - 健康・安全を意識した取り組み方 - 自主的・計画的な取り組み方 - 仲間との関わりとその協力する態度
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする

評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を <u>1:1:1</u> で集約し、5 (80%以上)、4 (80%未満～60%)、3 (60%未満～40%)、2 (40%未満～30%)、1 (30%未満) の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。
---------------------	---

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4 5	7	・オリエンテーション ・体育理論 ・体づくり運動 (集団行動) (体力テスト)	・年間計画と授業の目標について確認する。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、豊かなスポーツライフの設計の仕方について学ぶ。 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう。 ・仲間と積極的に交流する。 ・個々のねらいに応じ、健康に生活するために運動をおこなうための体力を身につける。 ・集団行動の行動様式を理解する。 ・正しい測定の方法を学ぶ。 ・仲間と協力し、主体的に行動する。 ・道具を正しく使用し、安全にも留意する。 ・自己の体力を理解し、課題を発見する。	○	○	○
5 6 7	19	・体育理論・単元テスト ・(男子選択) ○バドミントン ○卓球 ・(女子) ○テニス ・ダンス	・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。 ・感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。	○ ○	○ ○	○ ○
8 9 10	17	・体育理論・単元テスト ・(男子) ○テニス ・(女子選択) ○バドミントン ○卓球	・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。	○ ○	○ ○	○ ○
10 11 12	17	・体育理論・単元テスト ・(男女共習) ○バレーボール ○バスケットボール	・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。	○ ○	○ ○	○ ○
12 1 2	7	・体育理論 ・(男女共習) ○スキー・スノーボード ※スノーボードを選択する場合は条件を満たせば可能	・単元の定着度、理解度を深める。 ・十勝の雄大な自然の中で、ウィンタースポーツに親しみ、生涯スポーツの基礎資質を養う。	○	○	○
3	3	・レクリエーションスポーツ	・仲間と協力して企画・運営を行い、安全に留意しながら取り組む。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育	年次	2	コース	共通
科目名	保健	履修区分	必修	単位数	1
教科書（出版社）	「現代高等保健体育 保体701」（大修館）				
副教材（出版社）	「現代高等保健体育ノート」（大修館）				
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。				
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 教科書と保健ノートを使用しながら授業を行います。
- (2) 必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習効果を高めるよう授業を行います。
- (3) 教材の内容と身近な健康や安全に関することを関連させながら理解を深めたり、思考・判断する機会を作ります。
- (4) グループワークなどを通して、自分が考えたことや仲間が考えたことを他者に伝える機会を作ります。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	- 健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること、及び環境を改善していくための基礎的な事項について理解したことを言ったり書いたりしている。 〈内容〉 1 単元 現代社会と健康 2 単元 安全な社会生活 3 単元 生涯を通じる健康 4 単元 健康を支える環境づくり	- 現代社会と健康、また生涯を通じる健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、表現している。 - 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、表現している。 - 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断ができるとともに、表現している。	健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること、及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
評価資料	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述内容 - 各種課題等の記述内容 - 確認テスト等の点数 - 定期考査の点数	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述内容 - 各種課題等の記述内容 - 確認テスト等の点数 - 定期考査の点数	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述状況 - 各種課題等の提出状況 - 授業用具の準備（忘れ物）
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする

評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (80%～60%未満)、3 (60%～40%未満)、2 (40%～30%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。
-----------------------------	---

3 年間授業計画

月	時数	学習内容 (カッコ数字は各単元予定時数)	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	3	オリエンテーション(1) 1-06 運動と健康(1) P26 特設⑤(1)	・ 年間の授業内容と評価について説明 ・ 健康と運動の関係について説明できる。	○	○	○
5	3	1-07 食事と健康(1) P27 特設⑥(1) 1-08 休養・睡眠と健康(1)	・ 食事と健康の関係について説明できる。 ・ 健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。	○	○	○
6	4	1-11 薬物乱用と健康(1) P35 特設⑧(1) 1-12 精神疾患の特徴(1) 1-13 精神疾患の予防(1)	・ 薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・ 現代社会における精神保健の課題をあげることができる。 ・ 精神疾患の早期発見のために必要なことを説明できる。	○	○	○
7	2	1-14 精神疾患からの回復(1) P42 特設⑨(1)	・ 精神疾患の治療について例をあげて説明できる。	○	○	○
8	2	1-18 健康に関する意志決定・行動選択(1) 1-19 健康に関する環境づくり(1)	・ 意志決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・ 社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。	○	○	○
9	4	P56.57 特設⑬⑭(1) 【前期期末考査】(1) 【考査返却】(1) 3-06 結婚生活と健康(1)	 ・ 心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。	○	○	○
10	4	3-07 中高年期と健康(1) 3-08 働くことと健康(1) 3-09 労働災害と健康(1) 3-10 健康的な職業生活(1)	・ 加齢に伴う心身の変化について例をあげて説明できる。 ・ 働くことの意義と健康との関わりについて説明できる。 ・ 労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・ 職場がおこなう健康に関する取組について例をあげて説明できる。	○	○	○
11	4	4-07 保健サービスとその活用(1) 4-08 医療サービスとその活用(1) 4-09 医薬品の制度とその活用(1) P122.123 特設⑤⑥(1)	・ 保健行政の役割、サービスの活用例を上げることができる。 ・ 医療保険の仕組み、医療機関の役割について説明できる。 ・ 医薬品の正しい使用法について説明できる。	○	○	○
12	3	2-04 応急手当の意義とその基本(1) 2-05 日常的な応急手当(2)	・ 応急手当の意義について理解する。 ・ 日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解する。 ・ 救命講習	○	○	○
1	2	2-06 心肺蘇生法(2)	・ 心肺蘇生法の方法と手順について理解する。 ・ 救命講習	○	○	○
2	2	【後期期末考査】(1) 【考査返却】(1)		○	○	○
3	2	まとめの授業①(1) まとめの授業②(1)	・ 1 年間の授業を振り返り、自ら興味関心を抱いた分野についてレポートを作成する。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	外国語	年次	2	コース	共通
科目名	英語コミュニケーションⅡ	履修区分	必修	単位数	4
教科書（出版社）	「All Aboard! English Communication Ⅱ」（東京書籍）				
副教材（出版社）	「Listening Pilot Level 1」（東京書籍）				
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動などを通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。				
	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深める、これらの知識を、聞く、読む、話す、書くなどの実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できるようにする。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることを目指す。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に着ける。		
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、5つの領域別に設定する目標の実現を目指す。				
	(1)聞くこと 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話しの展開や話し手の意図を把握することができるようにする。	(3)話すこと（やり取り） 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝えあうことができるようにする。	(5)書くこと 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝えることができるようにする。		
	(2)読むこと 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。	(4)話すこと（発表） 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝えることができるようにする。			

1 学習の進め方と留意点

- (1) Guess 基本語句を確認する
- (2) Listen 英語を聞き内容を把握する
- (3) Read 英文解釈・音読など
- (4) Speak 自分のことを表現する
- (5) Write 各レッスンの目標に向かって表現する
- (6) Grammar 基本文法事項を確認する

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・定期考査 ・小テスト	・提出物 ・言語活動 ・アクティビティー	・提出物 ・小テスト ・言語活動 ・アクティビティー
評価資料	・定期考査評価 ・小テスト評価	・提出物評価 ・言語活動評価 ・アクティビティー評価	・提出物評価 ・小テスト評価 ・言語活動評価 ・アクティビティー
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を1：1：1で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	12	Lesson 1 A Colorful Island	・関係代名詞 what ・海外で行ってみたい場所について英語で述べる事が出来る	○	○	○
5	12	Lesson 2 With the Beatles	・比較表現 ・世代を超えて人気のある人物について英語で述べる事が出来る	○	○	○
6	12	Lesson 3 Wild Men	・it の用法 ・身近な行事について英語で紹介することが出来る	○	○	○
7	8	Lesson 4 Little Hero	・間接疑問文 ・自分で好きな物語を英語で紹介することが出来る	○	○	○
8	6	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	・to 不定詞を含む表現 ・日本の伝統文化について英語で説明することが出来る	○	○	○
9	12	Lesson 6 Seeds for Future Generations	・動詞の目的語になる if 節 ・地元で有名な場所やものについて英語で説明することが出来る	○	○	○
10	12	Lesson 7 Over the Wall	・関係副詞 ・世界の人々と交流する方法について英語でのべる事が出来る	○	○	○
11	14	Lesson 8 Inspiration from Nature	・知覚動詞 ・自然界のデザインをヒントにした製品について英語で発表できる	○	○	○
12	12	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	・使役動詞 ・社会的な問題について英語で意見を述べる事が出来る	○	○	○
1	8	Lesson 10 Fighting Angel	・分詞構文 ・人を助ける職業について英語で説明することが出来る	○	○	○
2	10	2 年次の復習	・Sounds Interesting ・Zoom in with コーパス ・Essay Writing	○	○	○
3	8	2 年次の復習	・英語活力 UP コーナー ・Something interesting	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	情報	年次	2	コース	共通
科目名	情報Ⅰ	履修区分	2年必修	単位数	2
教科書（出版社）	「 図説 情報Ⅰ 」 （ 実教出版 ）				
副教材（出版社）	「令和7年度版 全商情報処理検定 模擬試験問題集」 （ 実教出版 ）				
教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を学び、学習活動を通して論理的かつ創造的な思考を身に付ける。				
	(1) 情報分野に関連する技術を身に付けるようにする。	(2) 職業人に求められる課題を発見する力を身につけ、課題解決に向け知識と技能を活用する力を養う。	(3)職業人として必要な人間性を育むと共に協働の態度を養う。		
科目の目標	情報社会の中で持続的な発展を担う職業人として必要な知識・技術を身に付けることを目指す。				
	(1) 情報社会を生きる者として必要最低限の IT 用語や基礎知識を身に付ける。	(2) 課題発見から課題解決に向けた取り組みを論理的に構築する思考を養う。	(3) 職業人として最低限必要となる IT スキルの習得を目指す。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 全商情報処理検定の筆記問題をベースに学習を進めます。
検定受験は任意ですが、単元テストとして同検定の過去問や模擬問題集の問題を出題します。年間を通して反復学習を行うことで、年度末までに合格点（70点）が取れるようになるために、わからない事を放置せず確認する習慣をつけて下さい。
- (2) 様々なアプリケーションを使う上で必要となる技能として、タイピング速度の向上に努めてください。（日検 文章入力スピード認定試験3級レベル以上（10分間に350字以上）を目標としてください）
- (3) IT用語（特に頭文字で省略する用語）を覚える際は、英単語の意味から推測すると覚えやすいので、正式名称（略さない名称）を覚えるよう心掛けて下さい。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	- 単元テスト - 課題レポート - 実技テスト	- 単元テスト - プレゼンテーション（課題） - プログラミング（フローチャート）	- 身嗜み（校則遵守） 特に、Yシャツの裾が出ていたり、ネクタイ・リボンがだらしなく垂れ下がっていたり（第1ボタンの開放も）と、制服着用ルールは徹底します。 - 居眠りや授業と無関係なタブレット使用などが確認される場合の減点 - 課題の取り組み状況（ベ切厳守） - 出席（評価期間の授業数に対し2割を上限値として欠席の有無を評価）
評価資料	- 単元テスト - 課題レポート - 実技テスト	- 単元テスト - ニュース発表 - 課題レポート	- 出欠 - 身嗜みチェック表 - 課題提出状況 - 検定への取り組み姿勢
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を1：1：1で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	IT用語	IT用語かるた IT用語の意味を知るための重要な語句を覚える。 (GW 課題あり)	○	○	○

5	25	IT 用語	コンピュータの基本構成とその役割について学ぶと共に、 そこで使われる単位や表現方法について理解する。	○	○	○
6		コンピュータの 5 大機能	2 進数・10 進数・16 進数の相互変換（計算方法）を学ぶ。			
7		2 進数・16 進数 単位（接頭辞） デジタル表現	単位の接頭辞 G：ギガ、T：テラ、 μ ：マイクロ、n：ナノ など、生活レベルで使用されている単位について覚える。 色、音、画像、動画のデジタル表現やファイル形式について学ぶ			
8	15	アルゴリズムとプログラム	プログラムの設計図でもあるフローチャートについて学び、 論理的な表現（言語化と構造化）を身に付ける。	○	○	○
9		情報社会における法規と制度	情報の管理や知的財産の保護などについて法制面から正しい知識を身に付ける。			
10						
11	12	ネットワーク	LAN、WAN、WWW などのネットワークに関する基礎知識を身に付ける。	○	○	○
12		セキュリティ	暗号化の仕組みやコンピュータウィルス等の基礎知識、サイバー攻撃から情報を守るための仕組みについて学ぶ。			
1						
2	8	モデル化とデータの活用	相手にとってデータを見やすく表現するための方法について学ぶと共に、データの活用方法についても知識を身に付ける。	○	○	○
3	5	情報デザイン	情報を伝達するための様々な表現方法について学ぶ。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教 科 名	理科	年 次	2	コース	共通
科 目 名	化学	履修区分	選択	単位数	4 (②+ 2)
教科書（出版社）	「化学 vol.1 理論編」（東京書籍）				
副教材（出版社）	「ニューアチーブ化学」（東京書籍）				
教科の目標	自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				
	(1) 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。	(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。		
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を養う				
	(1) ・化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	(2) ・化学的な事物・現象を観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	(3) ・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

1. イメージをもたせて学習内容を理解させる。 2. 学習内容が定着するまで基礎問題を解く。 3. 学習内容が日常生活にどうつながっているかを伝えたり、考えさせたりする。 4. 学習内容を用いて観察や実験を行い、実際の現象とリンクさせる。
--

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、化学に関する知識を総合的に身に付けている。 ・自然の事物・現象に関する観察、実験を行い、実験器具を正しく取り扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、様々な事象を科学的に探究する技術を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に課題を見だし、解決を目指して思考を深め、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・自然の事物・現象について、化学に関する知識を基に、説明する力を養う。	・自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、化学的性質だけでなく、利用法について考えようとする態度を身に付けている。 ・命題について科学的な根拠を持って答える力や科学的な視点を持ち考える力を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の提出状況 ・確認テスト等の点数 ・振り返りシート等
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%～80%未満)、3(40%～60%未満)、2(30%～40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

[illegible]

		1編 物質の状態 3章 溶液の性質 1節 溶解 A 溶解のしくみ B 固体の溶解度 C 溶液の濃度 D 固体の溶解度 2節 希薄溶液の性質 A 蒸気圧降下と沸点上昇 B 凝固点降下 C 沸点上昇・凝固点降下と分子量 D 浸透圧 E 浸透圧と分子量 3節 コロイド A コロイド粒子 B コロイド溶液の性質 C コロイド溶液の種類	・水に溶けやすいものと、溶けにくいものの違いを考える。 ・イオン結晶と極性分子、無極性分子の溶解について溶媒の種類と関連付けて考える。 ・混ざりやすさについて、極性の有無で考えられることに気づく。 ・飽和溶液について溶解平衡を使って考える。 ・溶解度と溶解度曲線の表し方について理解する。 ・再結晶について説明し、水和水を含む再結晶について考察する。 ・質量パーセント濃度、モル濃度の計算方法について、その特徴を元に理解する。 ・質量モル濃度の表し方と利用について理解する。 ・気体の溶解について、その特徴を理解する。 ・ヘンリーの法則について、その特徴を理解する。 ・減圧症について知る。 ・純溶媒と不揮発性の物質を溶かした希薄溶液の蒸気圧を比べて、その違いについて理解する。 ・蒸気圧降下から沸点上昇を考える。 ・モル沸点上昇について理解する・溶液と純溶媒の凝固点の違いについて理解する。 ・モル凝固点降下について理解する。 ・冷却曲線から、過冷却を判断し、凝固点がどこになるかを考える。 ・電解質の希薄溶液について考え、非電解質との違いを理解し、質量モル濃度の使い方を確認する。 ・沸点上昇度・凝固点降下度から溶質の分子量を求める方法を理解する。 ・寒剤の仕組みについて知る。 ・浸透圧の仕組みについて理解する。 ・ファンツホッフの法則を確認し、浸透圧から分子量の求め方について理解する。 ・海水の淡水化を例に逆浸透という方法があることを知る。 ・金原子が集まった粒子を用いて赤色に着したガラスを使って、性質の違いについて考える。 ・コロイド粒子について理解し、真の溶液とコロイド溶液の違いについて考える。 ・コロイド溶液の様々な性質を理解する。 ・コロイド溶液の性質について、実験を元に確かめ、その現象について考える。 ・疎水コロイドと凝析の現象について理解する。 ・親水コロイドと塩析、保護コロイドについて理解する。	○	○
7	6			○	○
8	4			○	○

		1編 物質の状態 4章 固体の構造	・結晶の種類について確認し、その特徴を確認する。 ・結晶は粒子が規則正しく配列した構造をもつ固体で、 規則的でない固体を非晶質と言うことを確認する。						○ ○
		1節 結晶 A 結晶の種類	・単位格子と配位数について理解する。 ・金属結晶の代表的な構造について考える。	○					
		2節 金属結晶の構造 A 金属結晶の構造	・面心立方格子，六方最密構造，体心立方格子について その配列，配位数，充填率について理解する。 ・面心立方格子と六方最密構造についてそのモデルを作 り，同じところと違うところに気づく。	○					
		3節 イオン結晶の構造 A イオン結晶の構造	・単位格子の一辺の長さや原子半径の関係について理解する。 ・金属結晶とイオン結晶の粒子の違いについて確認し， その構造について考える。	○					
		4節 分子結晶と共有結合の 結晶 A 分子結晶 B 共有結合の結晶	・単位格子に含まれるイオンの数と，イオン結晶の配位 数について，その構造とともに理解する。 ・イオン半径と結晶の安定性について確認する。 ・分子結晶や共有結合の結晶について，金属結晶やイオ ン結晶との違いを考える。 ・分子結晶の構造について確認し，氷の結晶構造を理解する。 ・ダイヤモンド，黒鉛，二酸化ケイ素の構造を確認する。 ・ダイヤモンドの結晶の単位格子と密度について理解する。 ・ダイヤモンドの結晶の充填率について理解する。	○ ○ ○ ○ ○					
		2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光	・化学エネルギーと熱の関係について考える。 ・化学変化や状態変化には熱の入りを伴うことを理解する。 ・反応エンタルピーΔHとその符号について理解する。	○ ○ ○					
		1節 反応とエンタルピー変 化 A 化学反応と熱の出入り B エンタルピーの変化 C いろいろな反応エント ルピー D 生成エンタルピーと反 応エンタルピー E 化学反応が自然に進む 方向	・反応エンタルピーの表し方について理解する。 ・状態変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。 ・反応エンタルピーの種類について理解する。 ・反応に関係する各物質の生成エンタルピーの値から， その反応の反応エンタルピーを求めることができる。 ・温度と熱量の関係を理解することができる。 ・エントロピーについて理解する。 ・反応の経路の違いによるエンタルピー変化について考える。 ・ヘスの法則（総熱量保存の法則）について理解する。 ・実際に測定することが難しい反応の反応エンタルピー を求めることができる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○					
		2節 ヘスの法則 A ヘスの法則 B 結合エンタルピー	・結合エンタルピーとは，気体分子内の共有結合を切る のに必要なエネルギーであることを理解する。 ・ヘスの法則から，結合エンタルピーを用いて反応エン タルピーを求めることができる。	○ ○					
		3節 光とエネルギー A 光とエネルギー B 物質と光	・蒸発エンタルピーの利用について知る。 ・ホタルの発光などを通して，光の放出について考える。 ・光が波であることを確認し，光子のもつエネルギーと その光の波長の関係を理解する。 ・光の放出と吸収について理解する。	○ ○ ○					
9	6								
10	8								

		2編 化学反応とエネルギー 2章 電池と電気分解	・酸化還元反応を利用してエネルギーを電気として取り出す方法について考える。 ・電池の原理を確認し、 ^{ガセル} ニエル電池の仕組みについて理解する。		○	
		1節 電池 A 電池の原理 B 実用電池	・電池の種類を確認し、マンガン乾電池、アルカリマンガン乾電池、鉛蓄電池の構造と特徴を理解する。	○		
		2節 電気分解 A 電気分解 B 電気分解における反応 C 電気分解の法則	・リチウムイオン電池、燃料電池の構造と特徴を理解する。 ・燃料電池の作成を通して、電池の効率について考える。 ・イオン傾向の大きい金属の単体の取り出し方について考える。 ・電気分解の基本的な用語を確認し、水溶液の電気分解の酸化還元反応について理解する。	○	○	
11	8		・塩化銅(Ⅱ)水溶液の電気分解、水の電気分解を通して、電気分解における各電極の反応を理解する。 ・塩化銅(Ⅱ)水溶液の電気分解を行い、電極の質量変化について考える。 ・水酸化ナトリウムの製造、銅の電解精錬、電気メッキ、アルミニウムの溶融塩電解を通して電気分解の工業的な利用について理解を深める。 ・海水から電気分解によって食塩が製造される方法を知る。 ・電気分解の量的関係について各電極の反応式から、ファラデーの電気分解の法則を理解する。 ・ファラデー定数について説明できる。	○	○	○
		3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ	・反応の速さについて具体例を挙げて考える。 ・化学反応には瞬時に反応が進む速い反応から、長い時間をかけて進む遅い反応まで様々あることを理解する。	○		○
		1節 反応の速さ A 速い反応と遅い反応 B 反応の速さの表し方	・反応速度 v の表し方を理解する。 ・濃度と反応速度の関係について説明できる。 ・温度による反応速度の違いを理解する。 ・触媒による反応速度の違いを理解する。	○	○	
		2節 反応速度を変える条件 A 反応速度と濃度 B 反応速度と温度 C 反応速度と触媒 D 反応速度を変えるほかの要因	・均一触媒と不均一触媒について確認する。 ・濃度、温度、触媒以外の反応速度の違いについて確認する。 ・反応が進行する条件について意見交換をする。 ・反応速度の表し方を理解する。 ・活性化エネルギーとは何かを説明できる。 ・活性化エネルギーと化学反応の経路について、反応エンタルピーと結合エンタルピーの違いを理解する。	○	○	
12	6	3節 反応のしくみ A 粒子の衝突 B 活性化エネルギー	・触媒を用いると活性化エネルギーはより小さい反応経路になるが、反応エンタルピー是不変なることを理解する。 ・触媒が化学工業の発展に大きく関わっていることを知る。	○		○
		3編 化学反応の速さと平衡 2章 化学平衡	・両方向に進む反応について考える。 ・可逆反応、不可逆反応、正反応、逆反応について説明できる。 ・平衡状態とはどのような状態なのか説明できる。 ・化学平衡の法則の関係を理解する。	○	○	
		1節 可逆反応と化学平衡 A 可逆反応と不可逆反応 B 化学平衡 C 平衡定数と化学平衡の法則	・平衡定数 K の表し方を確認し、その値が一定温度で固有の値を取ることを知る。 ・固体の関与する反応において、化学平衡の法則の式に固体物質を含めないことを理解する。 ・炭素の同素体であるダイヤモンドの人工合成について知る。 ・平衡定数と気体の分圧の関係について、気体の状態方程式から説明できる。	○		○
1	6	2節 平衡の移動 A 平衡移動の原理 B 濃度変化と平衡の移動 C 圧力変化と平衡の移動 D 温度変化と平衡の移動 E 触媒と平衡の移動 F ルシャトリエの原理の化学工業への応用	・ルシャトリエの原理を理解し、説明できる。 ・気体混合物が平衡状態にある場合、その圧力変化によって平衡が移動することを説明できる。 ・平衡状態において、温度変化による平衡の移動を発熱、吸熱という言葉を使って説明できる。 ・平衡状態では触媒の有無で平衡が移動しないことを理解する。 ・ルシャトリエの原理を応用して、ハーバー・ボッシュ法を説明できる。	○	○	○

[illegible]

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	外国語	年次	2	コース	共通
科目名	論理・表現 I	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	「MY WAY Logic and Expression I」（三省堂）				
副教材（出版社）					
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの3つの領域別に設定する目標の実現を目指す。				
	(1) 話すこと（やり取り） 日常的な話題について使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。	(1) 話すこと（発表） 日常的な話題について使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。	(1) 書くこと 日常的な話題について使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) Words and Phrases モデル文中の語句や表現を練習する
- (2) Model 英文解釈
- (3) Useful Expression 表現するために大事な文をモデル文の中からとりあげる
- (4) Word Bank 自分のことを表現するときに使える語句や表現を練習する
- (5) Let's Talk / Let's Speak / Let's Write 内容を色々なことにかえて表現する
- (6) Exercise 課で学習する文法を確認する問題練習をする

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・定期考査 ・小テスト	・提出物 ・言語活動 ・アクティビティー	・提出物 ・小テスト ・言語活動 ・アクティビティー
評価資料	・定期考査評価 ・小テスト評価	・提出物評価 ・言語活動評価 ・アクティビティー評価	・提出物評価 ・小テスト評価 ・言語活動評価 ・アクティビティー評価
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	Lesson1 Let's talk about ourselves	・基本英文法 ・初対面のあいさつ ・自己紹介のスピーチ ・たくさんの友だちと話をする	○	○	○
5	5	Lesson2 School Life	・基本英文法 ・好きだった教科についての会話 ・部活動を紹介する記事の原稿 ・自分の学校や町を紹介する	○	○	○
6	6	Lesson3 The Arts	・基本英文法 ・週末の予定についての会話 ・好きな絵についての発表 ・どんな顔ができるかな	○	○	○
7	6	Lesson4 Food and Culture	・基本英文法 ・料理を注文するときの会話 ・日本の食文化を紹介するレポート ・料理の作り方を説明しよう	○	○	○
8	6	Lesson5 Welcome to our town	・基本英文法 ・道案内の会話 ・地域の特徴やマスコットキャラクターについての発表 ・観光案内をしよう	○	○	○
9	6	Lesson6 Traveling Abroad	・基本英文法 ・買い物の会話 ・旅行先から友だちへのメール ・行ってみたい場所についての発表	○	○	○
10	6	Lesson7 Sports	・基本英文法 ・スポーツの試合についての会話 ・車椅子競技を紹介する発表 ・私はだれでしょう？	○	○	○
11	6	Lesson8 Everyday Technology	・基本英文法 ・紙の本と電子書籍のよさについての会話 ・科学技術製品を紹介する記事の原稿 ・賛成や反対の意見を言ってみよう	○	○	○
12	6	Lesson9 Take Care	・基本英文法 ・病院での会話 ・健康についての発表 ・皆で意見を述べ合おう	○	○	○
1	6	Lesson10 SDGs-Take Actions!	・基本英文法 ・SDG s についての会話 ・SDG s についての原稿発表 ・友だちに感謝のメッセージを贈ろう	○	○	○
2	6	Basic Skills ①②	・パラグラフライティングの書き方 ・効果的なスピーチの表現 ・効果的なプレゼンテーションの表現	○	○	○
3	6	Basic Skills ③④	・ディスカッションの表現方法 ・ディベートでの表現方法	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	数 学	年 次	2	コース	共通
科目名	数 学 B	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	「新編 数学 B」（数研出版）				
副教材（出版社）	「3TRIAL II+B」（数研出版）				
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

1 学習の進め方と留意点

(1) 課題学習型授業

主に与えられた問題を解くことで、思考力や自主学習能力を向上させます。考査は選択制で、1 学年時の考査形式を踏襲し 8 割が共通問題、2 割は標準問題及び基礎問題とします。標準問題が評価に大きく関わります。

(2) 家庭学習

「わかる」と「できる」は同じではありません。「わかる」ために授業をフル活用し、「できる」ようになるために家庭学習（授業時間外の学習）を習慣にしてください。問題集、スタディサプリ等に繰り返し取り組みましょう。

2 評 価

評価の観点	知 識・技能	思 考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度
評価の観点の趣旨	・数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	・離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述状況 ・宿題・課題等の提出状況 ・振り返りシート
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	7	1 章 数列	数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。 等差数列についての関心を深め、一般項を初項と公差を使って表せることを理解する。 等差数列の初項から第 n 項までの和の求め方に興味を持ち、それが n を用いて表せることを理解する。 等比数列について関心を深め、一般項を初項と公比を使って表せることを理解する。	○	○	○
		1 節 等差数列と等比数列				
		1 数列と一般項 (1)				
		2 等差数列 (2)				
		3 等差数列の和 (7)			○	○
		4 等比数列 (2)		○		

5	6	5 等比数列の和 (2) 2 節 いろいろな数列 6 和の記号 Σ (2) 7 階差数列 (1) 8 いろいろな数列の和 (1)	等比数列の初項から第 n 項までの和の求め方に興味をもち、それが n を用いて表せることを理解する。 記号 Σ の意味と性質を理解し、自然数の累乗の和を Σ を用いて表すことができる。 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し、数列の一般項が求められる。	○	○	○
6	6	【前期中間考査】 3 節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式 (3) 2 数学的帰納法 (2)	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められる 数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できる。	○	○	○
7	6	2 章 統計的な推測 1 節 確率分布 1 確率変数と確率分布 (2) 2 確率変数の期待値と分散 (4)	確率変数、確率分布の意味を理解する。また、確率分布を求めることができる。 確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。	○	○	○
8	4	3 確率変数の和と積 (2) 4 二項分布 (2) 【前期期末考査】	確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。 二項分布の意味を理解する。また、二項分布の確率や平均、分散および標準偏差を計算できる。	○	○	○
9	6	5 正規分布 (4) 2 節 統計的な推測 6 母集団と標本 (2)	連続分布とその代表の正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数の確率が計算できる。また、二項分布で近似して確率の計算ができる。 標本調査の意義を認識し、標本の抽出法や用語を理解する。また、母集団の平均、分散、標準偏差が計算できる。	○	○	○
10	6	7 標本平均の分布 (2) 8 推定 (2) 9 仮説検定 (2.5) (2)	標本平均の平均と分散を計算できる。また、標本平均の分布と正規分布の関係を理解する。 推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 仮説検定に関わる用語を適切に活用することができる。	○	○	○
11	6	3 章 数学と社会生活 1 数学を活用した問題解決 (6) 【後期中間考査】	日常生活における問題や社会問題を数学的に考察するときの手順を理解している。 数学的に問題を解決するのに必要な数値や関数は、調査結果を用いて妥当な値を仮定できることを理解している。	○	○	○
12	6	2 社会の中にある数学 (6)	選挙における議席の割り振り方を理解し、与えられた手順通りに割り振ることができる。 偏差値を用いると、異なるデータ間で値を比較できることを理解している。	○	○	○
1	6	3 変化をとらえる～移動平均～ (6)	移動平均を用いると長期的な変化の傾向が調べやすくなることを理解している。	○	○	○

2	6	4 変化をとらえる ～回帰分析～ (6)	散布図について理解し，傾向を読み取ることができる。 回帰直線を利用して，観測していないデータを予測することができる。	○	○	○
3	5	研究 最小2乗法 (5)		○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	総合	年次	2	コース	共通
科目名	課題探究	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	なし				
副教材（出版社）	なし				
教科の目標	総合的で教科横断的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力を育成する。				
科目の目標	3年次の本格的なコース選択授業に必要なスキルを学ぶ。 コース選択のほか、実生活における問題解決や進路実現に係る論文作成等にもつながる基礎的な力を身に付ける。				
	(1) コース選択に関わる探究の過程において、必要な知識及び技能を身に付けさせるとともに、地域や社会の特徴やよさに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付く。	(2) コース選択に関わる探究の過程において問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身に付ける。	(3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を育てる。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 自身の進路を見据えながら、様々な分野に興味関心を持って取り組むことを心掛けてください。
「なぜ?」「どうして?」と疑問を持つことから勉強はスタートします。
- (2) 誰かに言われたから行動するのではなく、周囲の状況を見極め自ら進んで行動することが重要です。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・授業内容を理解し、知識として身につけている ・授業で学んだ技能を活用することができる	・疑問を持つこと、課題を発見すること、自分の意見を持つことができる ・自分の考えを他者に伝えることができる	・社会で当たり前に求められる規律を守る事を身に付ける ・受動的（言われてから動く）ではなく、主体的（考えて自ら動く）行動ができる
評価資料	・単元テスト（筆記・実技） ・提出物（ノート・課題プリント等）	・単元テスト ・プレゼンテーション ・提出物	・授業での様子（身嗜み、忘れ物、受講姿勢等） ・課題等の提出状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1：1：1で集約し、5(80%以上)、4(60%～80%未満)、3(40%～60%未満)、2(30%～40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	各コースのガイダンス グループ分け	・学習の進め方について説明 ・活動グループを決める（各グループ10名程度） 【A:福祉 B:スポーツ&ヘルス C:ビジネス】 A:福祉に関する時事問題、調査学習、レポート作成 B:スポーツ・イン・ライフに向けた学習 C:割合計算（割合、分数、パーセントの計算）	◎	○	◎
5	6	課題解決プレゼン	将来自分自身が取組みたい課題を見つけ、SDGs視点で自分の考えを発表する。	○	◎	○

6	8	実践演習	福祉)	・コミュニケーション技術 ・介護技術基礎 ・保育技術基礎	◎	◎	○
7	4		スポ)	・トレーニングとサポート技術 ・リハビリ技術 ・様々なスポーツに親しむ			
8	4		ビジ)	・ビジネスの基本（挨拶・言葉使い・身嗜み） ・儲かりの秘密について考える ・価格について考える ・プロモーション(販売促進)活動 ・経営者の考え方			
9	8		※コースによっては、校外での実習があります。				
10	8						
11	8						
12	6						
1	4						
2	6						
3	4	演習発表	まとめ（振り返り）		○	◎	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	総合	年次	2	コース	共通
科目名	キャリアアップ	履修区分	必修	単位数	1
教科書（出版社）	なし				
副教材（出版社）	なし				
教科の目標	総合的で教科横断的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力を育成する。				
科目の目標	キャリア学習を通じて、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力をつぎのとおり育成する。 (1)自己の能力・適性を理解し、その向上にむけて努力する。 (2)職業や社会についての理解を深め、自らの人生を主体的に切り拓く力の基礎を身に付ける。 (3)他者との協働を通じて、よりよい社会を実現しようとする態度を育む。				

1 学習の進め方と留意点

幸せな大人として生きていくためには、急速に変化する時代に対応できる力を身に付けることが必要です。
 今ある職業が 20 年後、30 年後にもあるとは限りませんし、機械や AI でもできる仕事には、それらよりも安い賃金しか支払われなくなるでしょう。
 自分の強みを育てそれを社会で生かしていく方法を考える。人生を通じて粘り強く道を切り拓くために進化し続ける。他者との協働を通じて愛し愛される人になり、ともによりよい社会を作っていく。校訓「考拓愛」に込められた思いを、自らのものにするための科目です。主体的、積極的な取り組みを期待します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・キャリア学習に関する知識及び技能を身に付け、その意義や価値を理解しているか。 ・自己の能力・適性について理解し、その向上に向けて努力できたか。	・キャリア学習を実社会や自己の在り方と関連づけることから、各自の課題を見つけ、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるか。	・キャリア学習に関して、主体的・協働的に取り組むとともに、他者と協調しながら、よりよい社会を実現しようとする態度を持つことができたか。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の提出状況 ・振り返りシートの記述内容
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	第 1 回進路希望調査	進路について考えると同時に自分が高校生活で頑張った（アピールできる）ことについても考える機会にする。			○
		手帳・ポートフォリオの指導	カワセミの目（メタ認知能力）の育成。		○	○
		デジタルドリル	次回基礎力診断テストへの練習問題に取り組む。GTZ アップを目指す。通年指導。	○	○	○
		さくら組	ｽﾀｯﾌﾟを活用した学力養成プログラム。積極的な参加を促す。通年指導。			
		進路達成プログラム 進路に関する学習会	進路希望別のプログラムに同じ目標を持った集団で取り組む。 進路希望に応じて、進路情報や職業人講話等に参加する。 通年指導。	○	○	○
		進学相談会【エビ】	上級学校について知る。同種の学校を比較する。			○
5	3	基礎力診断テスト【ベネッセ】	GTZ（学習到達ゾーン）の把握	○		○
		進路目標について PF「中間考査に向けて」	ここまでの活動をもとに、自分の進路について考える 中間考査に向けた目標設定		○ ○	○ ○

6	4	実力診断テスト【ベネッセ】 職業学問発見フェア【進学支援の会】 PF「学校祭に向けて」	一般クラス全員受験 GTZ の把握 職業を知りミスマッチのない進路選択を目指す。 学校祭に向けた目標設定	○	○	○
7	3	PF「学校祭を終えて」 PF「夏休みの目標」 進路ガイダンス【キッズコーポ】 夏期講習	目標は達成できたか。 夏休みに向けた目標設定 様々な上級学校について知る。 さくら組と連携。10月模試に向けた学習計画のサポート	○		○ ○ ○
8	1	PF「夏休みを終えて」 PF「期末考査に向けて」	目標は達成できたか。 期末考査に向けた目標設定		○ ○	○ ○
9	2	PF「期末考査を終えて」 PF「前期を終えて」	目標は達成できたか。 入学時に定めた目標の到達度は？目標の修正は？		○ ○	○ ○
10	6	実力診断テスト【ベネッセ】 見学旅行に向けて	一般クラス希望者全員受験 GTZ の把握	○	○	○
11	3	第2回進路希望調査 PF「中間考査に向けて」	中間考査に向けた目標設定		○	○ ○
12	2	PF「中間考査を終えて」 セルフプレゼン準備 PF「冬休みの目標」 冬期講習	目標は達成できたか。 冬休みに向けた目標設定 さくら組と連携。2年6月模試に向けた学習計画のサポート		○ ○	○ ○ ○
1	2	PF「冬休みを終えて」 セルフプレゼン準備・本番 実力診断テスト【ベネッセ】	目標は達成できたか。 1年間の学びのまとめ（目標への到達度、計画の再構築等）を保護者、担任にプレゼンテーションする。 一般クラス希望者全員受験 GTZ の把握		○	○ ○
2	1	PF「期末考査に向けて」 PF「期末考査を終えて」	期末考査に向けた目標設定 目標は達成できたか。		○ ○	○ ○
3	3	第4回コース別ガイダンス 卒業生講話 PF「1年を振り返って」	進路希望別活動。ここまでの反省。3学年の目標・計画。 体験を通して進路目標に関する意識を高める。 先輩の体験談を自己の進路に生かす。	○ ○	○	○ ○ ○